

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア言語文化圏研究部門 I・准教授
氏名 Name	中嶋善輝
専門分野 Academic Field	モンゴル語学, アルタイ言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アルタイ言語学 (モンゴル語とチュルク語の言語接触)
<p>平成 30 (2018) 年度は, アルタイ諸語のうち, カザフ語とモンゴル語に焦点を当て研究を行なった. 特に『簡明カザフ語辞典』(仮名; 見出し語数約 13000) の執筆を継続し, 見出し語が主に к, л, м, н, о に始まる語彙項目を記述した (約 2000 語). к の項目から記述例を挙げれば, 以下のようなものである.</p> <p>келу₁ (келіп / кеп) 【動】 ① 来る: Қашан келдіңіз? あなたはいつ来ましたか?.....</p> <p>келу₂ (келіп / кеп) 【補助動】 ① [=ып³+] (近づいて) くる: Салмақ қосып келемін. 私は体重が増えてきます. ② [=а³+] <目的> ...しに来る: Көңілімді сұрай келгендеріңе көп рақмет. 私のお見舞いに来てくれた君たちにどうも有難う.</p> <p>ここでの記述上の特長を指摘すると, 本動詞の келу₁ と補助動詞の келу₂ を, 別項目に分けたことである. 従来の辞書類は, これらを別項目にしていない. しかし, カザフ語の補助動詞は, 通常 態の接尾辞 (使動態, 受動態, 相動態, 再帰態) を取らないので活用が異なる以上, 見出し語としては分けるべきである. また, 例文は, 独自に採集したものにこだわっている (例えば, Қазақша-Монғолша сөздік, (1977) Б. Базылхан と『カザフ語辞典』(1995) 飯沼英三は, 多くの項目で同一例文が見られる). 補助動詞には, 「① [=ып³+] (近づいて) くる」「② [=а³+] <目的> ...しに来る」のように, 結合する副動詞ごとの意味の違いを明記した.</p> <p>カザフ語語彙の来源に関しては, カザフスタンで出版された辞書 <i>Казахско-русский словарь</i>, (2008) Р. Сыздықова の記述が, その成果をある程度参考にできるも, アラビア語やペルシア語, ロシア語系のものに限られ, 記述が見られない語彙も多い. 本書では, мырза (<i>ar+pe</i>) 《紳士, 殿方》や, мысық (<i>so</i>) 《ネコ》などの語にも, 語源・語構成に関する注記を付した (cf. 拙著『簡明ウズベク語辞典』(2015) 大阪大学出版会).</p> <p>また, 筆者が専門とするモンゴル語との言語接触の観点からは, 今回の範囲内では, 一部ではあるが以下のようなカザフ語語彙が, モンゴル語起源 (～干渉/仲介) であることを明らかにしている.</p> <p>кежім (<i>tu/mo</i>) 《裝飾馬衣》, маңдай 《額》, мардамсу (<i>mo+qa</i>) 《うぬぼれる》, мәре 《決勝》, мойыл 《ウワミズザクラ》, нағашы 《母方の親族》, найкалу (<i>mo+qa</i>) 《揺れる》, ноқай 《粗野な》, ноқта (<<i>mo<ch</i>) 《端綱》, нөкер 《護衛兵》, ну 《生い茂った》, нұқу (<i>mo+qa</i>) 《(手[棒]で) 突く》, оба 《塚》, олжа 《獲得物》, опа (<<i>mo<tu</i>) 《白粉[おしろい]》, орай 《(頭頂の) つむじ》</p> <p>今後も, 既刊辞典の日本語版でなく且つ単なる語彙集でもない, 独創性と進歩性を兼ね備えた辞書記述を志し完成を目指すとともに, アルタイ諸語間の言語接触類問題を解きほぐすべく, 基礎研究を発展させたい.</p>	